

補助事業概要の広報資料

補助事業番号：22-01-083

補助事業名：平成22年度 文化財保存に関わる研究者の養成補助事業

補助事業者名：財団法人 中近東文化センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

トルコ共和国の中央部に位置するカマン・カレホユック遺跡には、古代オリエント世界の歴史そのものが凝縮されている。この遺跡における発掘調査を通し、世界の共有財産である文化財遺産の発掘調査、修復、保護を実践することにより、世界の考古学、歴史学に寄与するのみならず、グローバルな視点に立った日本の文化行政を考えることのできる研究者を養成し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. 考古学の発掘調査を通して「文化財保存」若手研究者の養成（現地）

カマン・カレホユック発掘調査



平成 22 年度の出土遺物、遺構の保存、修復に関する研究者養成は、第 25 次カマン・カレホユック発掘調査と併行して行なった。当年度の現場での発掘は、7 月から 8 月までの約 2 ヶ月間であり、「文化財保存」の研究者養成は、その発掘期間中および 10 月から 11 月の建築遺構の保存作業の 2 期に分けて行なった。遺跡においては、昨年から引き続き 10mx10m の発掘区を、北区において 6 個、南区において 14 個、計 20 個の発掘調査を実施し、その後、遺物の整理・保存修復等の作業、発掘した遺構の保存作業等に入った。なお当年度も、現地において考古学フィールドコース（第 1 回：7 月 12 日～7 月 24 日／第 2 回：7 月 26 日～8 月 7 日／第 3 回：8 月 9 日～8 月 21 日）を開催し、総勢 10 名の学生が参加した。期間中、学生、若手研究者らは発掘現場で調査を実際に行ないながら、直接専門家の指導を受け「文化財」の取り上げ、保存、修復に関する技術を習得に努めた。また、キャンプ内においても専門家による修復等に関する講義が集中的に行なわれた。作業終了後は、キャンプのミーティングルームで専門家を交えて、各自の報告、討論が行なわれた。当年度は、7 月 10 日に開館したカマン・カレホユック考古学博物館（外務省 ODA により建設）において、発掘現場から出土した遺物が展示されているのを実際に目の前にしながら授業を行った。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

平成 23 年 3 月 26 日、27 日に予定していた 2010 年度トルコ調査報告会・第 21 回トルコ調査研究会は、東日本大震災の影響により開催を見合わせた。

(3) 成果

ア. 考古学の発掘調査を通して「文化財保存」若手研究者の養成（現地）

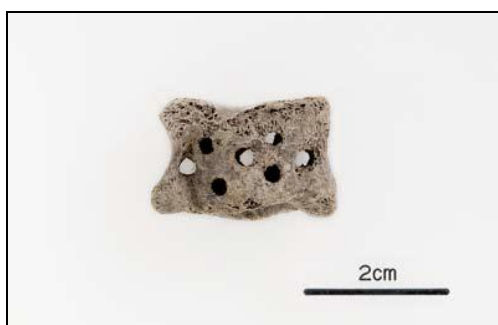
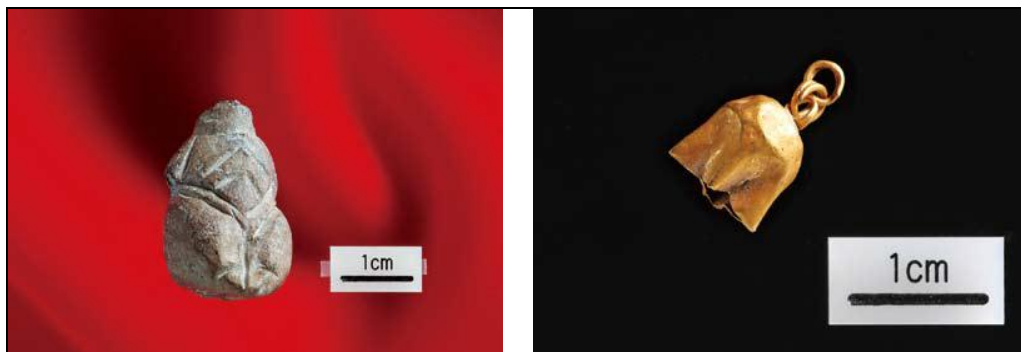
[第 25 次カマン・カレホユック発掘調査](#)

[考古学フィールドコース 2010](#)

カマン・カレホユック遺跡



遺物



発掘区



準備作業、発掘調査、整理作業と約6ヶ月間に渡って行なわれた本補助事業の現地での活動では、出土遺物-土器、青銅製品、鉄製品、土製品、石製品、獣骨、人骨、コイン、炭化物等-の取り上げ方、保存修復の技術、発掘現場の建築遺構の保存、修復等、多岐に渡る指導が行われた。現場において出土する遺物、遺構の最良の保存方法は決して一様なものではなく、その場で臨機応変に判断し、対処しなければならない。保存修復専門家による各々の遺物、遺構に適した取り上げ方や保存方法の指導を行えたことは、参加者の将来にも大きな意味を持つものと言えるだろう。本年度は、7月10日に開館したカマン・カレホユック考古学博物館（外務省 ODA により建設）において授業を行った。参加者にとっては、

発掘現場から出土した遺物が展示されているのを実際に目の前にしながらアナトリアの歴史を体感できる授業であり、また自分たちが発掘した遺物がこのような形で修復、保存され、博物館に展示されることを自分の目で見ることのできるよい機会であっただろう。今後、日本に戻った参加者が「文化財保存」を実行して行く上でたいへん有意義な経験であったと考える。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

当年度は、東日本大震災の影響により、2010年度トルコ調査報告会・第21回トルコ調査研究会を見合わせる事となったが、調査に参加した若手をはじめとする研究者、出土遺物の分析を依頼した研究者らは、引き続き研究を継続しており、より内容の濃い研究成果を報告できるものとする。

2. 今後予想される効果

ア. 考古学の発掘調査を通して「文化財保存」若手研究者の養成（現地）

現在の発掘調査における「文化財保存」は、発掘に付随した一部分であり、あまり重きを置かれてこなかったのではないだろうか。また、その専門家を養成するにあたっては、国内外を問わず多くの場合は発掘現場と切り離された形で行われており、現地で長期間に渡って研究者を養成するという事は行われてきていない。本補助事業においては、「発掘調査」、「文化財保存」は完全に一体化したものであり、どちらも等しく重要なものと捉えている。このようなシステムは、今後の日本における「文化財保存」に強く影響を与えるものとする。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

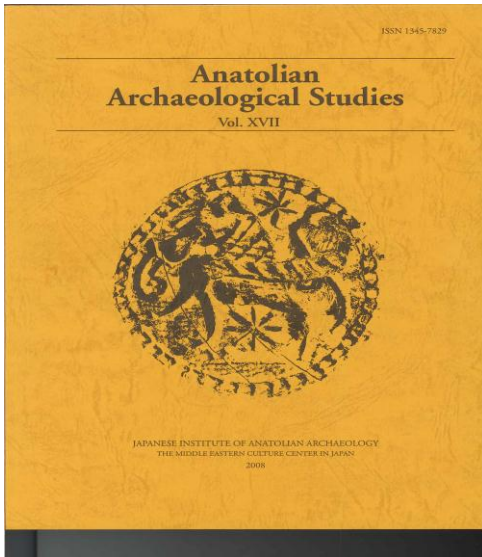
発表の機会が1年延びることとなったが、次の機会には、より深く広い視点から考察された研究成果の報告が期待される。

3. 本事業において作成した印刷物

Anatolian Archaeological Studies Vol.17

Anatolian Archaeological Studies Vol. XVII

表紙



奥付

The Kaman-Kalehöyük excavation and General Survey of 2007 and the publication of AAS XVII were supported by the following organizations (in alphabetical order):

Foundation for Cultural Heritage and Art Research
 Futaba Science and Culture Foundation
 Japan Foundation
 Japan Keirin Association
 Japan Society for the Promotion of Science
 Seki Memorial Foundation for Science
 Sumitomo Foundation
 Takasaki Foundation for Arts and Archaeology

This volume was pressed with a financial support of Japan Keirin Association



The Middle Eastern Culture Center in Japan
 3-10-31 Osawa, Minaka, Tokyo 181-0015
 E-mail: tokyo@jias-kaman.org

© Japanese Institute of Anatolian Archaeology / The Middle Eastern Culture Center in Japan 2008

ISSN 1345-7829

All rights reserved

Printed by ISEBU Co., Ltd.
 2-11-20 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005 Japan
 Phone 029-851-2515
 Fax 029-852-8501

Anatolian Archaeological Studies Vol. XVII

CONTENTS

SACHIBO OMURA, Preliminary Report on the 22nd Excavation Season at Kaman-Kalehöyük in 2007	1
SACHIBO OMURA, Preliminary Report of the General Survey in Central Anatolia (2007)	45
SACHIBO OMURA, Field Course on Archaeology at Kaman-Kalehöyük 2007	93
MASABO OMURA, Archaeological Surveys at Yarıhöyük	97
KAZUHIKO KUMAGATA, A Preliminary Magnetic Survey at Yarıhöyük	171
KANEYAMA MATSUMURA, A Note on Anatolian Iron Age Ceramic Chronology: Black Lustre Ware with Diamond Faceting	175
VANOREN'S HUNDT, Preliminary Report on Human Remains Analyzed in 2007	185
ANDREW FABRISSEN and KIRILLO BRADJEV, Archaeobotany at Kaman-Kalehöyük 2007	195
LARA KEALHEFFER, PITHA GRAVE, B. MARSH and KANEYAMA MATSUMURA, Analysis of Specialized Iron Age Wares at Kaman-Kalehöyük	201
KLAUS POWROZNIK, Vessels for Milk Processing from Kaman-Kalehöyük and Keşlik	225
WILLIAM ANDERSON, Settlement Change in Byzantine Galatia: An Assessment of Finds from the General Survey of Central Anatolia	233
J.D. HAWKINS and MARK WEDDEN, The Hieroglyphic Rock Inscription of Malkaya: A New Look	241
KAZUO KASHIMA, Paleo-Environmental Changes at Kaman-Kalehöyük, Kayseri, Turkey - A Verification of the Humid Periods during the Bronze Age and the Iron Age	251
YUICHI S. HAYAKAWA and HARUO TSUMURA, Accuracy Assessment of a Post-processing Differential GPS Device: A Case Study in Kaman and Hacılınt, Central Turkey	265
ANDREW HARRISON, Effects of Acid Treatment on Ceramics from Kaman-Kalehöyük	271
MARETS MASUBUCHI, A Metallurgical Study on Iron and Steel Arrowheads from Kaman-Kalehöyük Stratum II	281
WELLY S. K. BRIND, KANEYAMA MATSUMURA and ERIC NAKAL, Firing Technologies and Raw Materials of Typical Early and Middle Bronze Age Pottery from Kaman-Kalehöyük: A Statistical and Chemical Analysis	295
HEIICHI AKANUMA, The Significance of Early Bronze Age Iron Objects from Kaman-Kalehöyük, Turkey	313
I. NAKAL, Y. ABU, K. TANIRKARAN, S. OMURA and S. ERKUT, Preliminary Report on the Analysis of an Early Bronze Age Iron Dagger Excavated from Alcahöyük	321

目次

4. 事業内容についての問い合わせ

団体名称： 財団法人 中近東文化センター

(ザイダンホウジン チュウキントウブンカセンター)

住 所： 181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-31

代表者名： 理事長 阿部 知之 (アベ トモユキ)

担当部署： アナトリア考古学研究所 (アナトリアコウコガクケンキュウジョ)

担 当 者： 研究員 吉田 大輔 (ヨシダ ダイスケ)

電話番号： 0422-32-7665

F A X : 0422-31-9453

E-mail : tokyo@jiaa-kaman.org

U R L : <http://www.jiaa-kaman.org/>